



▶群馬県前橋市

タイガーマスク運動 支援プロジェクト

児童養護施設で育つ子どもが施設で暮らせるのは原則18歳までであり、退所を控えた子どもは親等の援助が望めずに大きな不安を抱えています。

この社会課題に対し自立を経済的に支援するため、平成22年に全国に巻き起こったタイガーマスク運動の最初の行動者である河村正剛氏（市内在住）とともに、全国の賛同者へ支援を求め、ふるさと納税を活用して社会全体で退所後の子どもを支えるプロジェクトを平成29年3月に開始しました。

具体的には、新生活準備支度金として15万円を支給するとともに、自動車運転免許取得の際の自己負担額を市内教習所との官民連携によりゼロとします。

寄附者に対しては、パンフレットを送付し、事業の意義や支援を受けた子どもたちの声を紹介しています。



社会的養護を必要とする子どもは全国に約3万5000人



不足額は自らアルバイトをして高校入学時から準備する実態も

注力した点や工夫した点

支援内容の検討にあたり、施設入所者はどのようなことに困っているのか実態を正確に把握することを第一に考え、関係者で意見交換会を実施しました。

Check

取組の効果

平成29年3月に児童養護施設を退所する7名に対し新生活準備支度金の支給を行いました。

多くの報道機関で取り扱われ、家庭環境に恵まれずに社会的養護を受けている子どもが全国各地にたくさんいるという社会課題に対し多くの方が想いを寄せるとともに、ふるさと納税による社会貢献の仕組みを広く周知できる機会となりました。

さらに、自動車運転免許取得

の際の自己負担額ゼロについては、市内企業のCSR活動を組み合わせた支援であり、新しい課題解決方式として注目されました。



パンフレットで事業の意義や支援を受けた子どもたちの声を紹介



児童養護施設入所児童が暮らす部屋の様子

寄附者の声



- すべて子ども達が幸せな未来を歩めますよう祈っています。
- 全国に取組が広がってほしいと思います。

住民の声



- 支援したいと考える方がいることを聞いてありがたいと思いました。後輩たちのために、これからも支援をお願いします。(支援を受けた子ども)